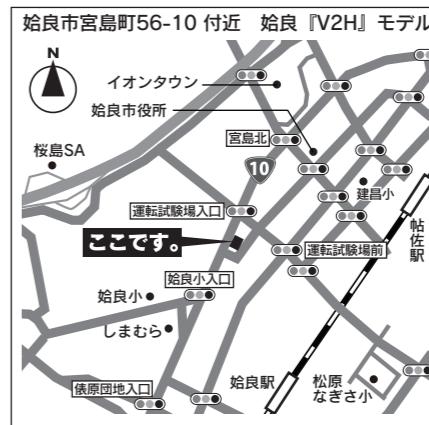


# 始良『H2V』展示場 公開中!



停電時、車から家へ電気を供給できる『V2H』システム搭載。感染症を提言できる循環空調システムと相乗効果のある設備。鹿児島に家族の日常と健康を守る家が完成しました。2020年からは、自活エネルギー住宅の本格的なZEH(ゼッチ)の時代を迎えます。『V2H』住宅は、太陽光発電を軸に「自活エネルギー住宅」を実現。住宅とEV自動車とが連結し、家庭用蓄電池の10倍以上の蓄電能を持つEV自動車、停電時等の家庭用電源としても機能します。松下孝建設がご提案する近未来型の自活エネルギー住宅を是非ご体感ください。

# 和楽展示場 公開中!

ハイブリッド・エコ・ハートQ  
「エアコン1台、全室低温空調暖冷房」

matsushitataka  
**和楽**  
WARAKU

丁寧に仕上げられた『和』の意匠は  
静謐な美しさを  
いつまでも『楽』しめる



鹿児島島の気候に適した高気密・高断熱と「循環空調」システムの「和」をイメージしたモデルハウスです。一般家庭用のリビングサイズのエアコンで室内空間のすべてが温度差なく、一年中を快適に過ごせます。高性能樹脂サッシと24時間計画換気で、結露の発生を防ぎ、家族の健康と住宅の高耐久性を実現しました。ZEH基準を標準クリアした外皮性能とハウス・オブ・ザ・イヤー2013で大賞を受賞した公的にも認められた施工技術の粋。外装、内装共にこれまでの松下孝建設とは少し違う趣を感じてください。



# 薩摩川内市 新モデルハウス



好評公開中!

住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。

0120-079-089

**10年間の住まいのあり方を問う「住生活基本計画」。**

「住生活基本計画」は、10年間の国の事情や住宅の抱える課題を元に、計画され5年ごとに見直されています。この基本計画から、住まいに求める国の目標が見えてきます。前の計画から10年経過し「住生活基本計画」が本年3月に閣議決定されました。これまでは、我が国の事情だけで計画が立案されてきましたが、地球温暖化やコロナ禍を踏まえた、感染拡大や脱炭素社会へ向けた、グローバルな計画立案が欠かせなくなっています。2015年に国連総会で決議された「SDGs」持続可能な開発目標「で世界的な脱炭素社会への気運の高まりを受ける中で計画策定されました。本年4月の日米会議で菅首相は2030年の温暖化ガス排出削減目標を表明し、小泉環境大臣は目標達成のために「住宅やビルに太陽

# 10年後の住まいのあり方を問う「住生活基本計画」と10年後の住宅予測?

**「住生活基本計画」の3視点と8目標について。**

下表・1の①・②・③の表題が「住生活基本計画」の3視点になります。3視点に関連した目標が①・②・③の視点に付随している目標1〜8になります。目標1のDX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉は、「最新のデジタル技術を駆使した、デジタル化時代に対応するための企業変革」という意味のビジネス用語ですが、これを住宅に当てはめると、これからの住宅に必要なスペースとなるのか、昔の書斎が復活することになるのかかもしれません。コロナ禍の「テレワーク」(在宅勤務)やリモート学習などは、コロナ禍だけの一過性のものから働き方改革を一挙に進める契機になり、今回の「住生活基本計画」の策定でも、最も主要な目標にになりました。遅れていたデジタル化が、我が国にも定着していくきっかけ

① 「社会環境の変化」からの視点	<b>目標1</b> 「新たな日常」やDXの進展等に対応した新しい住まいの実現	<b>目標2</b> 頻発・激化する災害心ステージにおける安全な住宅地の形成と被災者の住まい確保
② 「居住者」コミュニティからの視点	<b>目標3</b> 子供を産み育てやすい住まいの実現	<b>目標4</b> 多様な世代が支え高齢者等が健康で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり
③ 「産業」からの視点	<b>目標6</b> 脱炭素社会に向け住宅循環システムの構築と良質な住宅ストックの形成	<b>目標7</b> 空き家の状況に応じた適切な管理・除却・利活用の一体的推進
	<b>目標5</b> 住宅確保要配慮者が安心して暮らせるコミュニティ機能の整備	<b>目標8</b> 居住者の利便性や豊かさを向上させる住生活産業の発展

**「住生活基本計画」の見直しと強化されたポイント。**

新たな基本計画では「社会環境の変化」「居住者・コミュニティ」「住宅ストック・産業」の3つの視点が示され、それに基づいた8つの政策目標が掲げられました。「社会環境の変化」の視点では「新たな日常」の進展や自然災害に備えた住環境の重要性とそれらを踏まえた「地域住居」の生活状況に応じた住み替え。といった住まいの多様化・柔軟化、災害リスクを計算に入れた、安全な住宅造りと共に、住宅の安全を担保できる住宅地の形成を推進していくことが重要とす。また、菅首相が宣言した我が国の温暖化対策「2050年」のカーボンニュートラルの実現に向けて、住宅の省エネルギー性能のさらなる向上が求められ、省エネルギーとともに重要な住宅の長寿命化の基本となる「長期優良住宅」や「ZEH」の拡充を図る事が重要になります。更に、世代間距離を縮め、他世代が共存できる豊かなコミュニティの形成や住宅セーフティネット機能を整備して、既存住宅の流通の活性化等を積極的に進めていくこと等が計画されています。

**住宅の「省エネルギー基準」義務化から、日本の住宅も逃れられない。**

「住生活基本計画」で国土交通省は、2030年までに住宅のエネルギー消費量を2013年比で18%の削減目標を掲げました。2018年時点での削減量は2013年比3%で、この動きを加速するには、2020年の「省エネルギー基準」の義務化を反故にするような動きは許されなくなっています。我が国には「省エネルギー基準」未達成住宅が多く、脱炭素化で世界に後れを取っている大きな原因になっていきます。家庭から排出される二酸化炭素の削減が、我が国の脱炭素社会への鍵を握る施策となり、国土交通省も「省エネルギー基準」の義務化に本格的に取り組み方向に舵を切りました。松下孝建設は、全ての低炭素化の課題をクリアし、皆様のご用命にお応え致します。